軽井沢駅コンコースで出迎え
1万本の花のオブジェ

全国の生花販売店でつくるフラワーライフ振興協議会は10月31日、11月1日、軽井沢駅を花で彩る「スマイルフラワーフェスティバル」を開いた。新型コロナの影響で、需要が低迷している花の生産者支援が目的。

「エス・ケイ花企画」（軽井沢町）の金澤茂さんと忍さんが、長野県産のアルストロメリアやカーネーションなど約50種1万本を使い、コンコースを花の装飾で彩った。茂さんは「少しでもお花っていいな、ちょっと飾ってみようと感じてもらえたら」。千葉県から観光で訪れた女性は「色づかいが何とも言えずきれい」と写真撮影を楽しんでいた。

軽井沢駅コンコースを彩った花のオブジェを、写真に収める観光客ら。

さよなら、あたらさん！
信濃追分駅舎の編集室が閉鎖に

しなの鉄道・信濃追分駅舎内の「あたらさん編集室」が10月25日に閉鎖され、15年の歴史に幕を閉じた。編集室の関係者や追分住民ら約50人が見守る中、編集者の那須由莉さんと、画家で夫のりんどう林蔵さんが、駅入口の看板を下ろした。

那須さんは「暮しの手帖社」から依頼を受け2005年、別冊『あたらさん』の編集長に就任。信濃追分駅の駅長室を借り、編集室として使い始めた。別冊休刊後も夫と2人、周辺の花の手入れなどをしながら、駅舎での生活を続けた。70歳を過ぎ「体力があるうちに身の回りの片付けを」と、駅舎を離れることに。11月中に引越し作業を進め、今後はもともとあった追分の山荘と東京を行き来しながら生活する。

那須さんは15年を振り返り「感無量です」。9月には、駅舎と高原の駅の風情を守り、後世に伝える活動を行う「可惜（あたら）会」を新たに発足。「横の繋がりを活かしながら、駅の魅力を発信していきたい」と話した。

追分節保存会の歌唱とともに、看板を下ろした那須さんとりんどうさん（中央）。

御代田町、公設塾設置で、
中3の高校受験をサポート

御代田町は10月24日、町内の中学3年生の高校受験を支援する公設塾「夢サポート塾」を、同中で開講した。家庭教師派遣大手のトライグループに委託し、同社が契約を結ぶ講師が英語や数学を指導する。土曜日を中心に、高校受験直前まで全21回の授業を行っていく。

対象は御代田町内の中学3年生。10月初旬に受けたテストの結果に応じ、希望生徒65人を習熟度別に9クラスに分けて実施。受講生徒は月2000円を負担する。

開講式で小園拓志町長は「学ぶことは一生のもの。受験のことを考えるだけではなく、もうちょっと広い視野で、学びの基礎を作ってほしい」。御代田中3年の宮部勝矢さんは、「（夢サポート塾を通じて）自分の苦手な分野を克服していきたい」と話していた。

8～9人のクラスに分かれ、授業を受ける御代田町の中3生。

NEWS DIGEST

■「劇団かリス」に社会参加章 詐欺防止活動が評価

軽井沢町防犯組合連合会の女性部役員でつくる「劇団かリス」が、内閣府の「社会参加章」を受けた。高齢者向けに特殊詐欺被害防止の寸劇を続ける活動が評価された。劇団は2013年から特殊詐欺の手口を描いた紙芝居を始め、15年からはより臨場感を与えられるよう、寸劇を敬老会などで披露し詐欺被害防止を呼びかけている。代表者の堀口千津子さんは「名誉なこと。受章に負けないよう、活動していきたい」と話していた。

■ SC 軽井沢クのランニングサークル、ゴミ拾い

スポーツコミュニティー軽井沢クラブの、風越ランニングサークルは10月20日、普段走っているコースでゴミ拾いを行った。15人がスカップ軽井沢前から3コース（女街道、国道18号バイパス方面、軽井沢発地市庭方面）に分かれて出発。1時間ほどかけて、特大のごみ袋に満杯の可燃ごみと、袋半分のペットボトルや缶、瓶を集めた。田中良夫さんは「皆さんと一緒にできて楽しく拾えた。気持ちがいい」。同サークルは2016年にスタート。歩いたり走ったりするのが好きなメンバーが集まり、毎週火、土曜に活動。当初から、年一回のゴミ拾い活動を続けている。

■ 軽高２年生、軽井沢と沖縄を紐づけて比較

軽井沢高校２年生はそれぞれがテーマを決め、軽井沢と沖縄を比較する授業を４月から行っている。新型コロナの影響で沖縄への修学旅行が中止になったため、旅行予定日だった10月21日に町内でフィールドワークを実施。田中陽菜さんは高齢者の多い軽井沢と、若者が多く訪れる沖縄の旅行者の年齢層の違いに着目。旧軽井沢銀座通りへ出向き、聞き取り調査を実施して、20～70代の計24人から回答を得た。旧軽井沢銀座通りの印象について田中さんは「コロナ前の活気はなかった。年配の方が多いと思って調査したが、若い人が多かった」。２月に全校生徒の前で同授業の結果を発表する予定だ。